



新しき出会いを求め幾千里

国経21組

杉本博

1年夏の課外授業

1年の夏、「滑稽21組」の精鋭4人は北の大地を目指して、際限なく、無謀なる計画を企てました。友人の見つけた、車検2ヶ月、3万円のポンコツ車で、北海道を制覇しよう……との計画だった。秋葉原でキャンプ用品を買い込み、所持金を決め、僅かばかりの食料を積み込み、今は無き東北沢の代々木寮に集合し、北を目指した。服装は、なんと、半袖とGパンだけ。車には、中央大学代々木寮、ペンフレンド募集中等思い思いのペイントを施し、一路希望の大地、北海道へ出発。東京から埼玉県に入って、ヨ・シ掛け声と共にアクセル全開……ガラガラ-ン後続の車が事故だと思ったら……ピピピー我々の車のホイールキャップが道路端に飛んでいってしまい、それから間もなく、フロントグリルも無くなってしまった。



これで津軽海峡までたどり着けるのか？不安を抱きながらの出発でした。

その後は、順調に青森の大間から函館、大沼、洞爺湖、襟裳岬と進み、知床、網走、層雲峡、青森、秋田と回ったように記憶しております。

その一つ一つの地に、色々なエピソードがありました。一つ二つ紹介します。

まず洞爺湖では、思春期の青年らしく、相乗り人を見つけてローボートを漕ぎ、層雲峡では気の良い案内人を見つけ、心ときめかし束の間の時間を共有しました。襟裳岬では、高校時代の知り合いにばったり会い、その友人宅に泊めてもらい、ジンギスカンの料理を教授してもらいました。旅行中、食べ物には不自由していたのですが、アルコールは毎日、確保していたのは不思議でした。所持金わずか2万だったと記憶しています。積丹では、寒さのあまり、睡眠に使っていた毛布を体に巻いて寒さを凌ぎました。秋田の駅前では、おかずが買えなくて、ご飯に塩を振りかけただけの夕食をとり、風呂も4、5日に1回くらいだったと思います。

こんな旅行も若き日の貴重な思い出です。この仲間も現在は皆「長」の付く立場になって苦労していると思うと一寸可哀想な気がします。

さあお互い元気で頑張ろう。

写真で見る「駿河台は今」

このコーナーは随時掲載します(山下)

・昔の写真は中央大学大学史編纂課提供



画像にセピア処理を加えています

今

すすらん通り

昔



在学中、書店が集まるこの辺りを友人と共に散策した人も多いだろう。長髪とジーンズが似合うレトロ？な町並み(写真上)も今はきれいに整備され、通りは美しい石畳みに(同下)

昔



学舎

講義の合間によくおしゃべりを楽しんだ校舎の中庭(写真上)。同じ方向から見ただ正門付近(同下)は損保会社ビルになっており、中は警備員がガードしている



今